

## 【読楽】025 「商売往来」を読む \* 読楽箇所=全文

### 『商売往来』の概要

【作者】堀流水軒(観中・直陳)作・書。

【年代等】元禄7年(1694)5月刊。[大阪]高屋平右衛門(高谷平右衛門・棟鄂堂)板。

【概要】分類「往来物(産業科)」。「凡、商売持扱文字、員数、取遣之日記、証文、注文、請取、質入、算用帳、目録、仕切之覚也…」で始まり「…恐天道之働輩者、終富貴繁昌、子孫栄花之瑞相也。倍々利潤無疑。仍如件」と結ぶ文章で、商業活動に関する(1)商取引の記録文字等、(2)貨幣名、(3)商品、(4)商人生活の心得の4分野について記した往来。特に(3)商品が占める紙幅が大きく、しかもその殆どを類別の商品名(語彙)の形で掲げるのが特徴。その内訳は、被服73語、食品・食物23語、家財・家具・雑具70語、薬種・香料45語、武具38語、動物(主として魚介)43語、その他4語となり、合計296語を収録。日常に必要な商品名を列挙するため、結果としてこの分野は生活関係語彙集としての役割も果たしたと思われる。最後の商人心得は、勤勉・正直・節儉の諸徳に重点を置いて論じており、商人のみならず四民に通ずる教訓となっている。こうした内容上の特徴から、本往来は都市ばかりでなく農山漁村の子弟にも使われ、江戸後期より明治前期にかけて、数百版を重ねたほか、幾多の類書や垂流書を生むなど、著しい流布を遂げた。なお、初板本は本文を大字・4行・付訓で記し、巻末に「此一巻筆徒わらはべの便にと書あつめしなり。堀氏流水軒(直陳)」の識語を付す。ちなみに、元禄年間の刊記を持つものとして、元禄7年・高屋板(本館・小泉蔵)、元禄7年・武蔵板(小泉蔵\*高屋板とは異板)、元禄8年・大野木市兵衛板(小泉ほか蔵)、元禄8年・勝村治右衛門後印(酒田市立光丘図書館ほか蔵)があり、いずれも首題下部に「堀流水軒筆」と記す。このほか、無刊年本など堀氏揮毫の『商売往来』数種が確認されている。



### 『商売往来』初板本全文

商売往来 堀流水軒筆 \* 語彙分類は、三好信浩『商売往来の世界』(NHKブックス)を参考にした

およそ もちあつかうもんじ いんじゆ

凡商売持扱文字、員数、取遣之日記、証文、注文、請取、質入、算用帳、目録、仕切之覚也。

#### 【商用文書・用語】

まず 先、両替之金子、大判、小判、一步、二朱、金位品多、所謂、南鐐、上銀子、丁、豆板、灰吹等、

#### 【両替・通貨】

にせとほんてをかんがえ せとほんてをかんがえ め ほうつまで てんびんをもつて ふんどうそういなく わつぶはいはいせしむべきなり  
考贖与本手、貫、目、分、厘、毛、拂迄、以天秤、分銅無相違、割符可令売買也。

#### 【秤の単位】

そうこく うるしね もち おくて しょうず ささげ そば きび ひえ え  
雑穀、粳、糯、早稻、晚稻、古米、新米、麦、大豆、小豆、大角豆、蕎麦、粟、黍、稗、胡麻、荏、  
菜種。 【雑穀】

廻船数艘積登、問屋之蔵入置、直段相場聞合、不残於売払者、運賃、水上口銭指引相究、都合  
勘利潤之程、出入之有損失者、可辨之。 【取引用語】

譬者、味噌、酒、酢、醬油、麴、油、蠟燭、紙、墨、筆等。 【調味料・日用品】  
此外、絹布之類、金襴、縵子、段(緞)子、紗綾、縮緬、綸子、羽二重、北絹、生絹、天鵝絨、羅紗、猩々緋、  
羅脊板、毛氈、兜羅綿、端物、籠物、仕立物、古手、真綿、摘綿、木綿、麻苧、紬、肩衣、袴、羽  
織。同、紐、袷、単物、帷子、夜着、蒲団、蚊帳、浴衣、風呂敷、手拭、帛紗、帶、頭巾、踏皮。

【布帛・衣類】

并、染色、紺、花色、檜皮色、紫、鬱金、木賊、浅黄、茶染、萌黄、蕪枋、茜、紅粉処々染入、  
紋、縫、散、籬之菊、立浪、雪折笹、水車、御所車、沢瀉、地扇、菱、輪違、九曜、四目結、菊、  
桐、柏、藤巴、蔦、唐草、女童之好模様、恰好可心得。 【染色・染模様】

武士之用具、其品雖多、有増之分。弓、箭、鉄炮、鎗、長刀、鉾、鎧、兜、鞍、鎧、泥障、切付、轡、手綱、  
腹帶、鞆、鞍覆、鞭、差繩、扱又、刀、脇指之拵、目貫、鮫縁、柄頭、鐮、鋤、切羽、鷗目、鏢、隨其好、  
赤銅、真鍮、滅金、素銅、鉄、象眼、居紋、雕物之細工、猶可応国所、時之風俗也。 【武具・細工】

唐物、和物之家財、珊瑚、瑠璃、碑礫、馬腦(瑪瑙)、琥珀、瑠璃、水晶、青貝卓、青磁之香爐、堆朱  
之香合、香盆、蒔画、梨子地之硯箱、文庫、文台、筆架、硯屏、文鎮、磁石、南京石、目鑑、印籠、  
巾着。 【家財】

次雜具、葛籠、挾箱、長持、櫃、戸棚、筆筒、屏風、衝立、襖、障子、簾、縵幕、椀、折敷、湯桶、切立、  
弁当、食籠、重箱、提重、行器、皿、鉢、盃、問鍋、德利、錫、庖丁、生膾箸(真魚箸)、燭台、行灯、挑灯、短檠、  
菓罐、罐子、茶碗、茶柄杓、盥、椀、搔器、碓、碓、箕、飯銅、編笠、傘、木履、高直、下直、  
時所見合、可為売買也。 【雜具】

菓種、香具之事、伽羅、麝香、竜腦、樟腦、沈香、人參、黄耆(黄耆)、甘草、肉桂、丁子、川芎、白檀、黄連、  
当飯(当帰)、巴豆、蓮肉、柴胡、紫苑、茴香、陳皮、桂枝、三稜、義述、牽牛子、兔絲子、貝母、半夏、天南星、  
細辛、独活、麻黄、統髓子、藿香、大戟、枳殼、白芷、石斛、阿膠、羌活、大黃、檳榔子、杏仁、桃仁、阿仙菓、  
硫黄、明礬、焰硝、緑青、辰砂、練葉、粉葉、散葉、膏葉、全以、價之菓種不用、量入無之様、

正直第一也。 【菓種・香具】

其外、山海之魚鳥、鶴、雁、雉子、鶉、雲雀、白鳥、鷺、鶉、鳩、鴨、鯛、鯉、鮒、王餘魚、鱸、鱠殘魚、鱧、  
鱈、鮐、鮑、鱒、鯖、烏賊、辛螺、榮螺、蛸、海月、海老、牡蠣、蛤、馬刀、蜆、鮎、鮎(鰻)、  
鮭塩引、干鱈、煎海鼠、鯨百尋、鯛、塩鱈、鯉節、鯛、鯉等也。 【魚・鳥】

諸国名物、依無際限、令略之訖。  
右品々、前後雖為混亂、唯初学之童平生可取扱文字迄、任思出、粗馳筆也。  
抑、生商売之家輩、從幼稚之時、先、手跡、算術之執行、可為肝要者也。然而、歌、連歌、  
俳諧、立花、蹴鞠、茶湯、謡、舞、鼓、太鼓、笛、琵琶、琴、稽古之儀者、家業有余力折々、心懸可相嗜。或  
碁、将碁、雙六、小歌、三味線、長酒宴遊興、或不応分限、飭衣服家宅、泉水、築山、樹木、  
草花之樂而已費金錢事、無益之至、衰微破滅之基歟。 【諸芸】

惣而、見世棚奇麗、挨拶、応答、饗応可為柔和。太貪高利、掠人之目、蒙天罪者、重而問来人可稀。  
恐天道之働輩者、終、富貴繁昌、子孫榮花之瑞相也。倍々利潤無疑。仍而、如件。

元禄七年五月中旬

此一巻筆徒わらはへの便にと書あつめしなり。

堀氏流水軒 [直陳]<sup>なほのぶ</sup>

書林 大坂 高屋氏平右衛門

## 『商売往来』をめぐる学びの実情

### ●上野国勢多郡原之郷村・船津伝次平寺子屋「九十九庵」の指導記録『弟子記』

九十九庵は天保9年(1838)頃開設、明治5年(1872)まで続き、親子2代、約35年間で150人に教授。嘉永元年(1848)～安政6年(1859)の12年間、寺子70人分の指導記録『弟子記』が伝わる。

高井浩氏によれば、九十九庵では、①「いろは」「村名尽」「国尽」「郡尽」「十干十二支」「年中行事」「五人組帳前書」「証書類」の順に学習させ、次いで、②寺子の才能や生活環境に応じて「妙義往来(妙義詣)」「東海道往来」「四書」「徒然草」「庭訓往来」「今川状」「実語教・童子教」などを適宜教授し、さらに③終了年次に必修の手本として「百姓往来」「世話千字文」「商売往来」などを授けるといった一定のカリキュラムが見られた(『勢多郡誌』)。

\*本記録のうち、学習開始・終了時期(寺子屋での学習期間)が明らかな者を一覧にすると次のようになる。

	人名	学習期間	学習順序
①	高山喜作	安政4年1月～安政6年冬 1857.1-1859.11?(2年11ヵ月?)	「五人組」「手紙」
②	斎藤滝造	嘉永6年1月～安政3年11月【14歳登山】 1853.1-1856.11(3年11ヵ月)	「村名」「国尽」「名にしおう」
③	金子要作	嘉永元年3月～嘉永5年2月 1848.3-1852.2(4年)	「源平」「村名」「国尽」「年中行事」「五人組」「 <b>商売往来</b> 」
④	高山左金二	嘉永6年1月～安政3年12月【11歳登山】 1853.1-1856.12(4年)	「源平」「村名」「国尽・郡尽」「年中行事」
⑤	なほ	嘉永元年1月～嘉永6年11月 1848.1-1853.11(5年11ヵ月)	「源平」「村名」「国尽」「年中行事」「女今川」
⑥	品川茂兵衛	嘉永2年春～安政3年1月 1849.2?-1856.1(7年?)	「源平」「村名」「国尽・郡尽」「年中行事」「五人組」「妙義詣」「商売往来」
⑦	品川由兵衛	嘉永元年12月～安政3年11月 1848.12-1856.11(8年)	「源平」「村名」「国尽・郡尽」「年中行事」「五人組」「消息往来」「 <b>商売往来</b> 」「世話千字文」
⑧	船津嘉兵衛	嘉永2年冬～安政4年11月 1849.11?-1857.11(8年1ヵ月?)	「源平」「村名」「国尽・郡尽」「名にしおう」「 <b>商売往来</b> 」
⑨	船津由太郎	嘉永2年11月～安政4年11月【9歳登山】 1849.11-1857.11(8年1ヵ月)	「源平」「村名」「国尽・郡尽」「教訓往来」「五人組」「 <b>商売往来</b> 」「手紙」「世話千字文」

### ●大正初年の寺子屋実態調査(乙竹岩造『日本庶民教育史』)より

- ・乙竹岩造が、大正4年(1915)6月から同6年6月までの約2年間をかけて全国の寺子屋教育の実態調査を実施。
- ・調査票約1万2000通を用意し、東京高等師範学校・東京女子高等師範学校と全国各府県の男女師範学校の最上級生が帰郷した際、地元の故老を探して聞き取らせ、合計3090人(手習師匠経験者83人、寺子経験者3007人)が回答。
- ・本調査によれば、習字教材738種、素読教材652種が報告されたが、使用頻度が高い教材は次の通り。

習字教材ベスト10

	書名	人数・割合
1	いろは歌	2347人(76%)
2	村名・村付・村尽	1507人(49%)
3	名頭	1407人(46%)
4	<b>商売往来</b>	1262人(41%)
5	国名・国付・国尽	1033人(33%)
6	書翰文	529人(17%)
7	庭訓往来	513人(17%)
8	人名	436人(14%)
9	数字	423人(14%)
10	消息往来	400人(13%)

素読教材ベスト10

	書名	人数・割合
1	実語教	1341人(43%)
2	庭訓往来	981人(32%)
3	四書※	902人(29%)
4	<b>商売往来</b>	816人(26%)
5	童子教	810人(26%)
6	今川状	621人(20%)
7	五経※	607人(20%)
8	大学※	533人(17%)
9	論語※	485人(16%)
10	中庸※	369人(12%)

また、『商売往来』の学習について次の報告があった。

- 学習は徹底していたが、進度は個別で全く違った。また、大抵「いろは」と「名頭」を習い終わるのに半年、「村尽」「国尽」に半年、「百姓往来」と「**商売往来**」にそれぞれ1年、「庭訓往来」なら2年くらいはかかった。[下巻337頁・兵庫県]
- 村落では、習字は平仮名を読みつつ書くことから始め、これに約1年を費やした。2年目には「名頭」「苗字尽」、3年目には「村名」に進み、大抵はこれで退学した。さらに学ぶ者は「**商売往来**」に進んだ。[下巻58頁・愛知県]
- 習字では、「いろは(平仮名)」「村名」「国尽」「**商売往来**」「手紙文」の順に習うことが一般的で、普通は「**商売往来**」をもって最高の手本とし、入学後懈怠なき者は、3年間で「**商売往来**」までをマスターすると言われた。「庭訓往来」は百姓・町人には無用として教えられなかったケースが多い。[下巻387頁・三重県]
- 中には、手本の読みのみが教授されて、その内容について全く説かない寺子屋もあった。…70歳になっても「実語教・童子教」や「**商売往来**」の殆どを暗唱できたが、意味は十分に理解していなかった例もあった。[下巻266頁・京都府]
- 町奉行所には、『**商売往来**』の文中に記す商売を「正業」とし、その他の商売を排斥した例もあったが、寺子屋では、寺子の家業を批判するようなことは絶対に避けた点で、『**商売往来**』をもって職業の基準にするような教育は決して行われなかった。むしろそれ以外の職業を入れた増補版の『**商売往来**』を著すほどだった。『商売往来』にない商売とは多く遊芸や逸楽(気休に遊ぶこと)を指した。[中巻734頁・東京都]
- \* 山田俊雄『『庭訓往来』の注に関する断章』(新日本古典文学大系『庭訓往来・句双紙』)によれば、昭和初年頃でも「私は、今、『商売往来』にも載っていない商売をしているものだから…」と、日常会話に『商売往来』の語が使われたという。

### ●『商売往来』は往来物に非ず——田宮仲宣作、享和3年(1803)刊『東廬子(橋庵漫筆)』初編4巻

○『庭訓往来』『風月往来』などと云うて、往来の字を書翰雑筆の通称と思えるにや。往来とは『礼記』に「礼尚往来」と云うより出でたる名なる故、『庭訓』『風月』などは状毎に返報ありて礼をそなえたり。「往来」の字相当せり。爰に『**商売往来**』と云うもの有り。元禄の比、京都の訓蒙師・堀流水軒と云う人の著作とかや。唯一帖の物に「往来」と号しこといかんぞや。全く、一犬虚を吠えて万犬声を伝え、其の後、種々の往来といえるもの出来ぬ。「往来」とは麁々たる義なり。其の文中に「反物」「麁物」と書けり。「端物」「衣物」と書くべきを「麁物」と誤れり。いまだ裁ち縫わざる物を「端物」と云う。既に裁制せし物を「衣物」と云う。「衣通姫」「着衣初」などの「衣」なり。「麁物」とは当たらず。此の『**商売往来**』は、其の比、流水軒自筆を書林・大野木氏開板せしより、終に津々浦々迄も布き満てり。

\*『風月往来』には「返状」がないため、彼の言う「往来物」に該当しない。また、『商売往来』の大野木市兵衛板は元禄8年板であり「開板」は誤り。最古の元禄7年板は[大阪]高屋平右衛門板と刊行地不明の武蔵板。

### ●産業科往来の先駆としての『商売往来』

・職業別往来物は元禄7年(1694)刊『商売往来』が最初とされるが、『天和元年(1681)書目』や『貞享2年(1685)書目』に「職人往来」や「商民職人往来」の書名が見える。現存の宝暦6年(1756)刊『商民職人往来(職人往来)』は江戸の繁栄、諸職人・諸商売、物産を記した地理科往来。『天和元年書目』等の「商民職人往来」「職人往来」が産業科往来の先駆の可能性は残るが、後世に多大な影響を与えた産業科往来の筆頭が『商売往来』であることは間違いない。

・『商売往来』の構成は概ね「商業用語」「商品名」「生活心得」の順に記され、文字数は約1050字。一方、農業型の往来物は日常生活全般の「生活百科」的傾向が顕著で、大部なものが多い。

元禄10年(1697)書『農民鑑』	—————	約4300字
宝永10年(1710)書『農文蔵』	—————	約1500字
宝暦8年(1758)刊『田舎往来』	—————	約5700字
宝暦12年(1762)刊『農業往来』	—————	約1400字
明和3年(1766)刊『百姓往来』	—————	約900字
明和6年(1769)書『 <b>国法往来</b> 』	—————	約3000字
安政6年(1859)書『農民竈 <b>建</b> 往来』	—————	約18000字

以上のように大半が『商売往来』よりも長文であった。このように内容が膨脹していった農業型往来は、農作物の名称、天候の知識、農作業の手順など農耕生活に直結する内容が一層詳しくなるとともに、地域社会の物産・諸産業、交通・運輸関連、年中行事、信仰・祭礼など日常の家庭・社会生活に関わる事項が大幅に増補されていった。

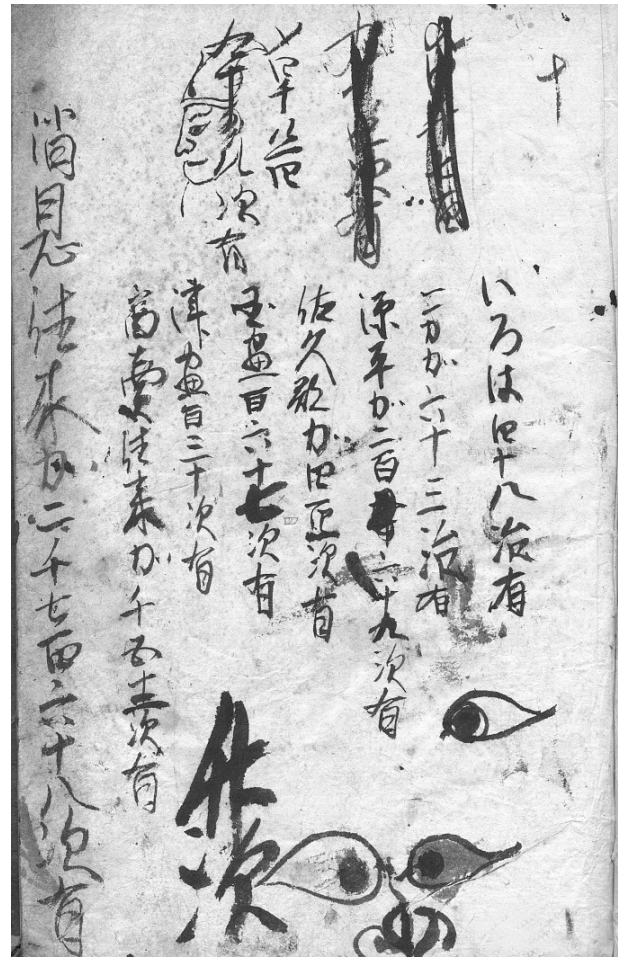
●文久3年(1863)『佐久郡村尽』<sup>さくぐんむらづくし</sup>

- ・学習者=信州佐久郡・早川武治良
- ・年代=文久3年(1863)頃
- ・内容=「佐久郡村尽」「国尽」「津尽」の3本収録  
裏表紙見返しに次の記載(誤りは訂正)。

- ①いろは四十八字有り
  - ②一万(数字?)が六十三字有り
  - ③源平(名頭)が二百六十九字有り
  - ④佐久郡が四百一字有り
  - ⑤国尽が百六十七字有り
  - ⑥津尽が百三十字有り
  - ⑦商売往来が千五十二字有り
  - ⑧消息往来が二千七百六十八字有り
- 上欄に「~~四~~四千八百九十八字有り」

早川武治良の学習過程

学習年次	教材名	字数	1日平均字数	
1年目	①いろは	48字	①~②合計 <b>380字</b>	1.1字
	②一万(数字?)	63字		
	③名頭	269字		
2年目	④佐久郡村尽	401字	④~⑥合計 <b>698字</b>	1.9字
	⑤国尽	167字		
	⑥津尽	130字		
3年目	⑦商売往来	1052字	2.9字	
4・5年目	⑧消息往来	2768字	3.8字	
合計		4898字	2.7字	



## 堀流水軒の著作

\*          は、三次市立図書館「往来本」デジタルアーカイブ (<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/3420905100>) で閲覧可能

- 1) 庭訓往来 \* 貞享4年(1687)刊
- 2) 御成敗式目 \* 元禄3年(1690)刊
- 3) **商売往来** \* 元禄7年(1694)刊
- 4) <堀氏流水軒> 書札手本 \* 元禄12年(1699)刊(正徳3年再刊)
- 5) <堀氏> 書状文集 \* 宝永5年(1708)刊
- 6) <堀氏手本> 正徳御式目 \* 正徳2年(1712)刊
- 7) <堀氏> 寺子往来 \* 宝永2年(1705)作、正徳4年(1714)刊、「用文章」「寺子教訓書」「船由来記」等を収録  
→ 「船由来記」は、池田松翁(松斎)書、元禄16年(1703)刊『船由来記』と同板
- 8) <金銀> 御吹替条目 \* 正徳4年(1714)刊
- 9) <堀氏流水軒> 泰平往来<国尽・官名> \* 正徳4年(1714)刊
- 10) <堀氏> 書学文集 \* 享保3年(1718)刊
- 11) **商売往来(頭書本)** \* 享保4年(1719)刊
- 12) <当用> 手紙文集 \* 享保14年(1729)刊
- 13) 風月往来 \* 享保頃刊(享保書籍目録に「堀流水ノ花鳥風月」と記す)、寛政12年(1800)刊『筆道早合点』に所収
- 14) ×今川(折本) \* 享保14年刊『<当用>手紙文集』広告中([大阪]藤屋弥兵衛板、原本未発見)
- 15) ×堀仮名手本(2冊) \* 享保書籍目録(原本未発見)
- 16) ×堀手本文集 \* 宝暦書籍目録(原本未発見)
- 17) ×女要都色紙 \* 明和書籍目録(原本未発見、堀流長軒力)

## 『商売往来』の絶大な影響力——異種商売往来その他

\*以下は、小泉編『往来物解題辞典』所収データを中心に整理したもの。

## ■堀氏商売往来(元禄板系統)諸本

- 1) 商売往来 \*堀流水軒作・書。元禄7年(1694)刊。[大阪]高屋平右衛門板、[?]武蔵板。
- 2) 商売往来(頭書本) \*堀流水軒作・書。享保4年(1719)刊。[大阪]大野木市兵衛板。
- 3) 〈寺沢流〉商売往来絵抄 \*寺沢政辰書か。享保17年(1732)刊。[江戸]鶴屋喜右衛門板。
- 4) 〈音曲〉商売往来 \*竹本染太夫草直作。宝暦12年(1762)刊。[江戸]鱗形屋孫兵衛ほか板。
- 5) 〈頭書絵抄〉商売往来 \*作者不明。江戸中期刊。[大阪]糸屋市兵衛板。
- 6) 商売往来〔〈商売〉字尽往来〕 \*作者不明。江戸中期刊か。刊行者不明。
- 7) 商売往来刊誤 \*北隄閑人書。文化6年(1809)刊。[江戸]須原屋伊八板。
- 8) 絵本商売往来〔〈絵図註入〉商売往来〕 \*作者不明。文化(1804-18)頃刊。[京都]銭屋長兵衛板。
- 9) 商売往来講釈 \*高井蘭山注。文政10年(1827)序・刊。[江戸]英平吉板。
- 10) 商売往来稚宝 \*山田野亭作。天保13年(1842)刊。[大阪]河内屋長兵衛板。
- 11) 〈嘉永新刻・頭書講釈〉嘉永商売往来 \*作者不明。嘉永(1848-54)頃刊。[伊勢]山本正左衛門板。
- 12) 〈万家童訓〉商売往来講釈 \*富士谷東遊子校。嘉永(1848-54)頃刊。[大阪]靖共閣板。
- 13) 〈御家〉商売往来〈并〉六玉川 \*中西一舟書。文久4年(1864)序・刊。[酒田]門人蔵板。
- 14) 商売往来画抄 \*槐亭賀全作。慶応元年(1865)序・刊。[江戸]吉田屋文三郎板。
- 15) 〈少年必携〉商売往来 \*槐亭賀全作。明治28年(1895)刊。[東京]栗本長質板。前項の改題本。
- 16) 〈改正再板・函会〉商売往来注抄 \*作者不明。江戸後期刊。[大阪]河内屋太助板。
- 17) 〈大字増補〉大全商売往来 \*作者不明。江戸後期刊。[江戸]上州屋政次郎板。
- 18) 〈絵抄〉商売往来 \*作者不明。江戸後期刊。[大阪]伊丹屋善兵衛ほか板。

## ■異種商売往来(増補型)

- 19) 〈増続〉商売往来 \*堀流長軒作・書。享保14年(1729)刊。[大阪]秋田屋市兵衛(大野木市兵衛)ほか板。  
→ 2巻1冊。上巻『〈増続〉商売往来』と下巻『続商売往来』から成る。前者は堀氏商売往来を部分的に増補・改訂したもの。『続商売往来』は続編として「士・農・工の三姓」のあらましを綴ったもの。
- 20) 〈商家〉日用往来 \*作者不明。安永7年(1778)刊。[京都]丸屋源兵衛板。  
→ 堀氏商売往来に漏れた語彙を集めた往来。「凡、商家取扱品々、先店売場の請払、現銀、掛売、糶売(せりうり)、判書、印判、印肉、書出、ノ高、送状…」。
- 21) 増字商売往来大全〔大増補商売往来・商売用字訓〕 \*作者不明。文化8年(1811)刊。[江戸]須原屋新兵衛ほか板。  
→ 堀氏商売往来の語句の入れ替えや増補などを大幅に行ったもの(文字数で約1.5倍の長文)。
- 22) 〈新撰増補〉大全商売往来 \*花形東秀書。文化3年(1806)書。文化11年刊。[江戸]大和田忠助板。  
→ 堀氏商売往来に大幅な増補・改編を行ったもの(元禄板の約2.7倍の長文)。
- 23) 〈文化増補〉日用商売往来 \*春候堂作。文化12年(1815)刊。[京都]堺屋嘉七板。  
→ 堀氏商売往来の増補・改編版(商取引関連語、衣類・食物・家財・武具・馬具・獣類等を大幅に増補)。
- 24) 新続商売往来 \*忍岡常丸作。文政5年(1822)刊。[江戸]山本平吉板。  
→ 堀氏商売往来に漏れた商業用語を集める。「凡、商売取扱文字数多前為漏取遣之日記、請状、請負、売券状…」。
- 25) 〈両点講釈〉大全商売往来〔古今商売往来〕 \*近沢幸山作。天保13年(1842)序・刊。[江戸]山城屋政吉ほか板。  
→ 「商売往来」「拾遺商売往来」「商売往来講釈」の3編を合冊。
- 26) 〈両点附〉広完商売往来 \*文花堂槐山作。嘉永3年(1850)刊。[江戸]近江屋太吉板。  
→ 堀氏商売往来に大幅に増補したもので、衣類・家財類・薬種類・武具類・鳥類・魚介類・諸国物産等の語彙が極めて多いが、諸国名産の記述は寛文9年(1669)刊『江戸往来』をそっくり模倣したもの。

## ■異種商売往来(明治期)

- 27) 〈習字〉改正商売往来 \* 黒田行元作。明治6年(1873)序・刊。[京都]石田忠兵衛板。  
→「開港以後の商法は、旧弊事件悉く、払ひ尽して一新し、会社を結び相助け、大事業おも最易く、成就すべきの時勢なり。先交易の品々は、山動植の諸品あり…」で始まる七五調の美文の新編商売往来。
- 28) 開化商売往来 \* 萩原乙彦作。明治6年(1873)刊。[東京]別所平七板。  
→ 堀氏商売往来の「旧弊の語」を排除し、もっぱら「新発の品物」を中心に綴った新編商売往来。
- 29) 開化童子往来(初編) \* 松川半山作。明治6年(1873)刊。[大阪]河内屋茂兵衛板。  
→ 近代以後の舶来品などの新商品や商業用語を中心に列挙した新編商売往来。日本人に馴染みの薄い外国製品や海外の鳥獣等については図解を添える。
- 30) 商家習字文[改正商売往来] \* 宇喜田小十郎作。明治6年(1873)序・刊。[京都]河島九右衛門板。  
→ 富国強兵に基づく内国物産の増殖と、海外貿易振興など近代商業のあり方を述べ、新時代の商業用語を綴る。
- 31) 〈和洋〉商売往来 \* 酔々堂作。明治6年(1873)序・刊。[東京]伊勢屋庄之助板。  
→ 堀氏商売往来の各語彙に英単語を掲げ、その読み方を示したもの(文章の英訳ではなく、英単語の羅列)。
- 32) 〈通商必携〉日用往来 \* 大須賀竜潭作。明治6年(1873)刊。[埼玉]大須賀竜潭蔵板。  
→ 堀氏商売往来を模倣して商業および日用新語を増補した新編商売往来。「凡商売、取扱ふ、文字は其数、多けれど、日々入用の、荒増は、取遣・日記、諸証文、手形・注文、送状…」のように七五調・美文体で綴る。
- 33) 〈商業必読〉万国商売往来 \* 横田重登作。明治6年(1873)刊。[京都]林芳兵衛ほか板。  
→ 堀氏商売往来にならい、万国交易大意、諸国産物、諸国金山、三物字類、諸国旗章大略、税則大意、貨幣大略、年曆時日大略、工作場、薬品大略、外国商旅、外国道程について述べた往来。
- 34) 万国新商売往来 \* 松川半山作。明治6年(1873)序・刊。[大阪]河内屋忠七板。  
→ 堀氏商売往来の文言を一新し、特に「西洋の諸品」などの新語を多く盛り込んだ往来。
- 35) 〈開化〉普通商売往来 \* 住正太郎作。明治6年(1873)序・刊。[大阪]此村庄輔板。  
→ 堀氏商売往来の明治期改編版。海外貿易による「海外ノ珍器」や「器械・衣服」などに重点を置く。
- 36) 万国商法往来 \* 松川半山作。明治7年(1874)刊。[東京]長野亀七板。  
→ 明治初年に海外から流入してきた舶来品などを列挙した新編商売往来。
- 37) 〈野田直衛著書〉改正商売往来 \* 野田直衛作。明治8年(1875)作。明治9年刊。[大阪]中野啓蔵ほか板。  
→ 宝石類、陶器類、兵器・武具類、薬種・薬品、工具、金属等の新語を多く盛り込んだ新編商売往来。
- 38) 開明商売往来 \* 吉田庸徳作。明治9年(1876)刊。[東京]大崎正板。  
→ 堀氏商売往来の語彙を一新した新編商売往来。「凡、商売、取扱ふ文字は、其数多けれど、日々入用の、荒増は、取遣・日記、来る人に、挨拶や応対、饗応丁寧、己を利さば人も利し…」で始まるほぼ七五調の文章で綴る。
- 39) 〈開化〉商売往来 \* 深沢菱潭(巻菱潭)作・書。明治9年(1876)刊。[東京]星野松蔵板。  
→ 「凡、商法売買に扱ふ文字之概略は、第一両替通用之、金銀・銅貨・紙幣・洋銀、国立銀行為換方、証券・印紙請渡…」と七五調の文章で綴った新編商売往来。
- 40) 〈横川文一書〉文明商売往来 \* 横川文一作。明治9年(1876)書。明治10年刊。[横浜]尾崎富五郎板。  
→ 「凡、進開化之域、商法・職業持扱文字之大略、員数・取遣之日記・受取・証書・証券…」で始まる新編商売往来。
- 41) 〈頭書講釈〉開化商売往来 \* 渡辺助次郎作。明治10年(1877)刊。[東京]児玉弥吉板。  
→ 【分類】産業科。【概要】中本一冊。「凡、商法売買取扱文字之員数雖多、先、日用之概略者、取遣之日記・証文・証券・確証・受取・注文・典入・手張(帳)・切手送状・算用仕切之覚也…」で始まる頭書講釈付きの新編商売往来。
- 42) 〈改正〉商売往来[開明商売往来・改正商売往来] \* 深沢菱潭作。明治11年(1878)刊。[東京]吉田直次郎板。  
→ 堀氏商売往来に新語や当時の通用語を増補した新編商売往来。
- 43) 〈開明〉商売往来(附録物産斤目表) \* 鶴田真容作。明治11年(1878)刊。[東京]辻岡文助板。
- 44) 〈開化一新〉商法往来 \* 深沢菱潭(巻菱潭)作。明治11年(1878)刊。[東京]内田弥兵衛板。
- 45) 〈大坪泰平著・増字両点〉商売往来 \* 大坪泰平作。明治11年(1878)刊。[富山]守川吉兵衛板。
- 46) 〈滝沢清著・開化〉絵入商売往来 \* 滝沢清作。明治12年(1879)刊。[東京]松崎佐兵衛板。
- 47) 〈新刻〉開化商売往来 \* 鶴田真容編。明治12年(1879)刊。[東京]児玉又七板。

- 48) 〈山本温編輯〉改正商売往来 \* 山本温作。明治12年(1879)刊。[大阪]鹿田静七板。
- 49) 〈開化〉商売往来 \* 岡本懐徳作。明治12年(1879)刊。[東京]瀬山佐吉板。
- 50) 〈開化〉商売往来 \* 鶴田真容作。明治12年(1879)刊。[東京]小林鉄次郎板。
- 51) 〈開化〉商売往来(附録家名部類) \* 鶴田真容作。明治12年(1879)刊。[東京]小森宗次郎板。
- 52) 〈新撰〉商売往来[新選商売往来] \* 土屋伊兵衛編。明治12年(1879)書・刊。[東京]土屋伊兵衛板。
- 53) 〈開化日用〉商法往来 \* 村松義次作。明治12年(1879)刊。[東京]荒木新兵衛板。
- 54) 〈明治新刻〉商法往来 \* 本多芳雄作。明治12年(1879)刊。[東京]山口屋藤兵衛板。
- 55) 〈小学須用〉新古商売往来 \* 桜井穎磨作。明治12年(1879)序・刊。[名古屋]溝口嘉助蔵板。
- 56) 〈小学習字〉改正商売往来 \* 西野古海作。明治13年(1880)刊。[鴻巣]長島為一郎蔵板。
- 57) 〈鼈頭挿画〉一新商家往来 \* 佐野元恭作。明治13年(1880)刊。[大阪]吉岡平助板。
- 58) 〈小学習字〉商売往来 \* 伊藤桂洲(信平)作。明治13年(1880)刊。[越生]新井政司ほか板。
- 59) 〈新選画入〉商売往来 \* 赤沢政吉作。明治13年(1880)刊。[大阪]花井知久板。
- 60) 〈小林義則編・巻菱潭書〉新編商売往来 \* 小林義則作。明治13年(1880)刊。[東京]文学社(小林義則)板。
- 61) 校正商売往来 \* 深沢菱潭(巻菱潭)作。明治14年(1881)刊。[東京]内田弥兵衛板。
- 62) 〈簡易科・手習の文〉商売往来 \* 東京府学務課編。明治14年(1881)刊。[東京]椀屋喜兵衛板。
- 63) 〈新編〉商売往来 \* 中島操作。明治14年(1881)刊。[長野]西沢喜太郎板。
- 64) 〈長崎県師範塾編輯〉商売往来読本 \* 長崎県師範学校編。明治14年(1881)刊。[長崎]長崎県師範学校蔵板。
- 65) 〈小学習字〉新編商売往来 \* 中島操作。明治14年(1881)刊。[長野]西沢喜太郎板。
- 66) 〈小学習字〉農商往来 \* 森小三郎作。深沢菱潭(巻菱潭)書。明治14年(1881)刊。[東京]森小三郎板。
- 67) 新撰商売往来 \* 成瀬正忠作。明治15年(1882)序・刊。[東京]東京府商法講習所蔵板。
- 68) 〈開化〉商売往来 \* 佐々木邦次郎編。明治17年(1884)刊。[東京]浜島精三郎板。
- 69) 〈新撰〉商売往来 \* 千葉忠三郎作。明治18年(1885)刊(求板)。[東京]大倉孫兵衛板。
- 70) 〈開化〉商売往来 \* 米山栄吉編。明治20年(1887)刊。[東京]吉田桂之助板。
- 71) 開化商売往来 \* 青木鍵之助作。明治21年(1888)刊。[東京]山崎臯平板。
- 72) 〈新選〉商売往来 \* 米山栄吉編。明治24年(1891)刊。[東京]牧金之助板。
- 73) 〈開化新撰〉商業往来 \* 鎌田在明作。明治25年(1892)刊。[東京]鎌田在明板。
- 74) 絵本商売往来 \* 作者不明。明治4年(1871)以降刊。刊行者不明。明治4年刊『世界商売往来』初編の改編本。
- 75) 改正商売往来 \* 作者不明。明治4年(1871)以降刊。刊行者不明。明治4年刊『世界商売往来』初編の改編本。
- 76) 〈改正増補〉開化商売往来 \* 作者不明。明治年間刊。[東京]松坂屋板。
- 77) 商売往来 \* 作者不明。明治年間刊。[山口]山口県蔵板。2巻2冊。  
→ 「凡、商業の世に広く物の有無を通するは、人の庶用を弁ふ為め無くて協わぬ道にして…」で始まる新編商売往来。
- 78) 〈新選〉商売往来 \* 深沢菱潭作。明治初年刊。[東京]書学教館蔵板。
- 79) 〈開化〉文明商売往来 \* 伊藤元延編。明治初年刊。[東京]積玉堂板。

### ■異種商売往来(絵字引型)

- 80) 商売往来絵字引(初編) \* 柳河春三(又玄斎南可)作。元治元年(1864)序・刊。[江戸]大和屋喜兵衛板。  
→ 堀氏商売往来の本文のほとんどの語句に図解と割注を施した、庶民の生活図鑑とも言うべき往来。
- 81) 商売往来絵字引(二編) \* 柳河春三(又玄斎南可)作。元治元年(1864)序・刊。[江戸]大和屋喜兵衛板。  
→ 『商売往来絵字引』(初編)の続編として編まれた図鑑風の往来物。初編に漏れた語彙を集める。
- 82) 道具字引図解(初・二編) \* 柳河春三(又玄斎南可)作。元治元年(1864)刊。[江戸]大和屋喜兵衛板。  
→ 『商売往来絵字引』と同様の手法で「神儒仏、朝武、農工商民家の用具、日用の器財」に関する極めて多くの語句を挿絵・略注とともに列挙した往来。
- 83) 世界商売往来(正・続・続々・補遺・追加) \* 橋爪貫一(松園)作。明治4-6年(1871-73)刊。[東京]雁金屋清吉板。  
→ 明治初年における貿易商子弟用の教科書として作られたもので、全5編5冊。
- 84) 日新表 \* 正風山人編(1輯)。橋爪貫一編(2輯)。明治6年(1873)序・刊。[金沢]広岡堂与作板。



- 2輯3巻3冊。1輯は『近古史略』、2輯は『万国百貨撰抜』。第一輯は安土桃山時代から明治維新までの特定の権力者や政治的事件を点描した往来。2輯上巻は明治4年刊『世界商売往来』（初編）、同下巻は『続世界商売往来』と同内容。
- 85) 絵本童幼早学 \* 横枕清七作。明治7年(1874)序・刊。[金沢]本谷清七板。  
→ 『商売往来絵字引』に始まる「絵字引」の要素を盛り込んで各種語彙を集録した往来。
- 86) 開化商売往来図解 \* 宮本興晃作。明治12年(1879)刊。[東京]木村文三郎版。
- 87) 〈新撰絵入〉農業往来 \* 太田聿郎作。明治13年(1880)刊。[大阪]河内屋卯助板。
- 88) 〈画引新撰〉改正商売往来[絵引(画引)商売往来] \* 伴源平作。明治16年(1883)刊。[大阪]河内屋忠七板。
- 89) 〈絵入普通〉商売往来[画入商売往来] \* 高峰寅二良作。明治16年(1883)刊。[大阪]秋田屋太右衛門板。
- 90) 〈新選絵入〉商売往来 \* 田中菊雄作。明治18年(1885)刊。[東京]伊藤福太郎板。
- 91) 〈絵引〉商売往来 \* 中村浅吉作。明治42年(1909)刊。[京都]中村浅吉板。  
→ 『商売往来絵字引』を模した往来。初板から220年近くを経てもなお堀氏商売往来が広く行われたことを示唆する。

### ■異種商売往来(異業種・異文型)

- 92) 〈頭書絵抄〉和国娼家往来 \* 作者不明。延享(1744-48)頃刊。[大阪]糸屋市兵衛板。  
→ 「凡、娼売持扱文字、心中遣繰之紋日記起請文、誓文、神様書入、客衆為泳(およがす)目算能仕掛之覚也…」と書き始め、色里(女肆)・遊女の名目や用語、嗜むべき教養や接客心得などを略述した往来。
- 93) 新商売往来[〈男女〉新商売万宝記] \* 作者不明。寛延2年(1749)刊。[京都]木村八郎兵衛ほか板。  
→ 堀氏商売往来の影響をほとんど受けていない独自の内容で、特に京都周辺からの商人や京中の諸商売の様子と、日常生活に関わる語彙を列挙した往来。
- 94) 百性往来豊年蔵[百姓往来] \* 禿箒子作。明和3年(1766)刊。[江戸]鱗形屋孫兵衛板。  
→ 農業型往来中最も流布したもので、「凡、百性取扱文字、農業・耕作之道具、鋤、鍬、鎌、<sup>からすき</sup>犁…」で始まる。
- 95) 〈絵入・新板・頭書〉道中往来 \* 禿箒子作。安永5年(1776)刊。[江戸]西村屋与八板。  
→ 「凡、旅立取扱文字、先以撰吉日、可令発足…」と書き始め「旅行に益ある事」を書き綴った往来。
- 96) 大工註文往来 \* 梅素亭玄魚(整軒玄魚)校。嘉永(1848-54)以降刊。[江戸]岐阜屋清七板。  
→ 享和(1801-4)頃刊『番匠作事文章』とほぼ同文で、「凡、番匠作事取扱文字者、今般御拜領之屋敷・御館向就建者、撰吉日良辰為致地祭…」で始まる往来。
- 97) 〈滑稽〉倡売往来 \* 十返舎一九作。文化2年(1805)序・刊。[江戸]青陽堂米助板。  
→ 堀氏商売往来の構成にならって、倡家用語・隠語や遊女心得、遊里風俗などを戯文で書き綴った往来。「凡、商売持扱<sup>やつさもつき</sup>啾々蹉跎取遣之節季、大門、提灯、掛取擲入、<sup>ねじり</sup>算用矣、番新頻之思也…」と起筆する。
- 98) 女商売往来(〈童女専用〉女寺子調法記) \* 池田東籬作。文化3年(1806)刊。[京都]鉛屋安兵衛ほか板。  
→ 文化板では「女実語教」「女商売往来」「女今川」の3本を収録。天保13年(1842)再板本では「女手習教訓状」を増補し、収録順序を「女実語教」「女今川」「女手習教訓状」「女商売往来」と改めた。このうち「女商売往来」は、堀氏商売往来を仮名交じり文に和らげたもので、「凡、商売の家を生ゝ人は勿論、女とてもいづれの妻となるらん、持扱文字、員数、取遣之日記、証文、注文…」と起筆する。
- 99) 本屋往来 \* 西川竜章堂作。文政11年(1828)刊。[大阪]西川竜章堂蔵板。  
→ 「凡、書林取扱文字雖多、先、外題用字有増、初学・童蒙・道しるべ・指南・稽古・手引草・秘伝・集要・調法記・掌中・一覧・袖中抄・問答…」で始まる本文で本屋の初歩的用語や心得を記した往来。
- 100) 〈遊里〉女性売往来[〈遊里〉性売往来] \* 鈍通人(根柄金内)作。江戸後期刊。刊行者不明。  
→ 「凡、性売持扱紋日、淫事、交合之日記、証文、身之代、仕切之覚也…」と起筆して、主に「新造(初心の遊女)」に必要な用語や心得を綴った戯文。
- 101) 〈新ばんおどけ〉商売往来 \* 作者不明。江戸後期刊。刊行者不明。  
→ 「凡、娼売持扱文字、員数、色狂之客、三文無当…」で始まる文章で、遊女の心得や遊女に必要な語句などを書き記した往来・戯文。
- 102) 〈おどけていきん〉道楽往来 \* 華山亭呼升作。江戸後期刊。刊行者不明。  
→ 「凡、道楽持扱文字、淫酒之最初其品多…」と始まる文章で道楽者の生涯を書き記した戯文。

- 103) 〈天野先生〉商売往来(仮称) \*天野某作。弘化3年(1846)書。  
→「商売之躰者、其品多けれど、先その大略すこし挙候」と書き始め諸商売と商人心得を綴った往来。
- 104) 農業往来 \*作者不明。安政元年(1854)書。  
→宝暦12年(1762)刊『(手本)農業往来』とは異文。「凡農業取扱的用之文字、先、年貢、上納、御蔵納、御取米、諸返上、夫料、反米、大小配分、物成、切地…」で始まる農業型往来。
- 105) 船方往来 \*潜夫書。安政(1854-60)頃刊。[上総]仁寿堂板。  
→上総地方の漁民子弟用に編まれた漁業関係の往来。「凡、平生船方取扱文字、先、地引船之造方者、敷、表敷、供敷、床、柁木、上棚、下棚、小縁、水押、五尺板、五尺立…」と起筆する。
- 106) 商売状 \*作者不明。江戸後期書か。  
→「夫、商人之身持者、先朝起早天、見世店奇麗掃除…」と起筆して商人心得と商売用語を列記した往来。途中から「朝夕取扱文字」として帳簿、通貨、穀類、輸送・流通、醸造品等の語句を列挙し、最後に商人心得で結ぶ。
- 107) 町家往来・日用往来 \*八万屋弥三郎書。江戸後期書。  
→町人に必要な日常語と基本的な心得を記した『町家往来』と『日用往来』に、贈答関連語彙を集めた「音信贈答之事」を合綴した手本。『日用往来』は、「抑、日用取遣之文字、其数雖難勝計候…」と起筆する。
- 108) 他国往来 \*作者不明。江戸後期書か。  
→江戸・関東を中心に日本全国の名所旧跡・名物等を略述した往来。「平常取扱候文字者、金子百五十両、大判・小判・一步・二朱等取交、銀者丁銀・豆板、佐渡通用之文字銀、都合二貫三百十五匁四分五厘、此等両替致…」と始まり、堀氏商売往来に酷似する。佐渡で使用された幕末の手習本。
- 109) 新撰農工商往来 \*石川県尋常師範学校編。明治20年(1887)刊。[金沢]益智館板。  
→3巻3冊で、農・工・商の各部毎に必要な語句と心得を列記した往来。3巻「商の部」は「凡、商売は貨物を交換し、有無を通し、余剰を以て不足を補ふ業にして、先づ、日々の取引に用ゐる帳簿には、受取手形、証文、注文、送状、仕切書、日記帳、台帳、金銭出入帳…」と起筆する。
- 110) 三業往来(小学習字帖七) \*林節和書。明治年間刊。[栃木]栃木県師範学校蔵板。  
→農・工・商の三つの産業について、堀氏商売往来風に関連の語彙を集めて編んだ往来。
- 111) 米穀往来 \*飯田某(神田川小僧)書。明治40年(1907)書。  
→「凡、米穀取扱文字、員数、取遣之日記、運賃、仕切之覚也。先に揚人夫之務、確實・正直第一たるべく、雑穀・粳・糯・早稲・晩稲・古米・新米・麦・大豆…」で始まる文章で、米穀商の基本心得と基本語彙を綴った往来。

## ■その他

- 112) 諸職往来 \*寺田正晴作。享保5年(1720)刊。[京都]菊屋七郎兵衛板。  
→序文によれば、堀氏商売往来に触発されて、それに漏れた語句を中心に綴った往来。「夫、士農工商者、国家之至宝、日用万物調達之本源也…」で始まる。
- 113) 〈再板土農工商・増補〉諸職往来[増補職人往来] \*作者不明。享和3年(1803)刊。[江戸]西村屋与八板。  
→享保5年(1720)刊『諸職往来』を大幅に改訂・増補した往来。特に農民・職人の用いる道具類の名称や工・商の業務・心得についての増補が目立つ。